



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 原田光雄

(HP) <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> (e-mail) office.osaka@nsk.org



第420号 2011年8月7日発行



編集者から1通のメールが送られて来ました。「平和の祈り」というタイトルで原稿を送れと言うご命令でした。8月6日に発行されるとの言葉を手がかりに駄文を記しました。

8月6日は広島に原子爆弾が落とされ、人類が最初に原子爆弾の惨禍を経験させられ



た日です。奇しくもこの日は、教会暦では「主イエス変容の日」です。イエス様をしてこの地上において、選ばれた弟子たちに天上の栄光のお姿をお示しくださった記念の日に、人類史上最初の原子爆弾が投下された。この投下を計画し決定した当時の関係者の誰一人として、この日が「主イエ

ス変容の日」であると言うことを思い浮かべる人はいなかったのか。まさに戦争とはそういう狂気のなせる業なのでしょうか。

今から4、5年前、大阪城公園の野外音楽堂で「憲法9条を守る会」の大きな集会が開かれ、依頼されて何人かの各界の代表者と共に平和につ

平和の祈り

司祭 ヨハネ 木村 幸夫

いてお話をしました。詳しい内容は覚えていませんが、戦後60年を経て、日本聖公会が表明したこと、日本聖公会総会で決議したこと、主に戦争責任告白、沖縄の問題を看過してきたことの反省等々を紹介して、わが日本聖公会も深い反省の上に立って、歩み始めたことを語りました。終了

後、何人かの方から「聖公会がそのように取り組んでいるとは知らなかった」「聖公会もやりますね」というような好意的な応答がありました。

最近の日本聖公会全体の動きは皆様のご承知のとおりであります。しかし、教会が、私たちが、このような社会の運動に関わっていくとき、悪

魔が舌なめずりをし、て教会の墮落をもくろんでいることを決して忘れてはならない。そうした働きが

教会の中に取込まれ、やがて重要な位置を占め、そしてついにはそれらが、礼拝よりも、愛よりも大切になるようになると、聖餐に与ること、つまり、悪魔の手に嵌りてしまうことをC・S・ルイスは警告しています。(C・S・ルイス「悪魔の手紙」第7信参照) この度の東日本大震災対策活動の京阪神聖公会3教区協

働「日立ボランティアセンター」が聖餐式をもって閉所され、聖餐式をもって閉所、朝の祈りをもつてその日の活動が開始されたことは、原点を見失わないために大事なことでありました。ボランティアに出かけるときも、キリストの弟子として出て行く、先だ

って行かれる主イエス・キリストの背中を見つめながら、キリストに仕えるために出かけていくことを忘れてはならない。神に献げられた働きであったと信じてたい。ボランティアに行くことが出来た人も、

背後で支えた人も、少し出来た人も、沢山出来た人も、イエスさまの弟子として「わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです」といひなさい。(ルカ17・10)とのみ言葉を覚えたいと願います。(きむらゆきお・大阪聖愛教会牧師、富田林聖アグネス教会管理牧師)

京阪神聖公会3教区 東日本大震災救援協働 第1期プロジェクト 終了感謝報告

東日本大震災被災者を救援するため、京阪神聖公会3教区が協働して設立し

た「日立ボランティアセンター」は開所以来今日まで、100人以上のボランティアがセンターに駆けつけて、寝食を共にし、いわき及び日立地域での活動を行いました。ボランティアの多くは、被災者の苦しみ、悲しみを分かち合い、心の交流を通して多くのものを学ぶことが出来ました。

当初の予定通り、その活動を6月30日(木)の感謝式(聖餐式)をもって終了しました。関係された皆様の祈りと献金、奉仕活動に深

く感謝いたします。大阪教区では東日本大震災災害対策本部(木村幸夫司祭)主

催の終了感謝の集い(感謝の祈りと交わりと分かち合い)が7月20日(水)午後7時より大阪聖愛教会でもたれ、70人の関係者が参加しました。

第2期は管区の「いっしょに歩こう!プロジェクト」へ参画し、7月1日(金)より活動拠点をいわき市にある小名浜聖テモテ教会内の聖テモテ・ボランティアセンターに移しました。活動期間は、2012年6月30日(土)までの1年間となります。(編集部)



支援活動に当たる松平司祭(左)

6月5日(日)、司式・説教の奉仕を終えた後「京阪神聖公会日立ボランティアセンター(以下センター)」に向かった。センター責任者として10日までの短期の出向命令であるが、震災経験のない小職には非常に心許ない役割であった。特に、センターの現状を把握する手段が人づてやブログでの方法しかなく、情報量の少なさに不安を覚えた。さて、センターは、北関東

被災地支援活動 現地レポート

現地のニーズは日々変化 待たれる活動の方向性

司祭 ヤコブ 松平 功

教区の日立聖アンデレ教会の牧師館をお借りして、4月19日からボランティアの宿泊と食事を提供している。それがセンターの主要な役割であった。業務は大まかに三種類あり、第一は、いわき市震災ボランティアセンターや小名浜にあるNPO「ザ・ピープル」に出向いて、ボランティア派遣してもらうこと。第二は避難所でのたこ焼き屋台などの催し物、傾聴ボランティア、物資の供給といった単発的なもの。第三は、センターの修復作業や事務作業などである。

被災地のニーズは日々変化し続けている。当時は、津波被害を受けた、いわき市近辺の側溝や民家の床下土砂掃除、また土砂を入れた土嚢の運搬作業などの力仕事を中心であったが、「40歳コード」が足かせとなり若者を派遣できなかつた。実の所、現地では多くの若者たちがボランティアとして働いており、聖公会の出した「40歳コード」に首をかしめるばかりであった。

センターは6月30日に一旦閉所され、第II期プロジェクトとして、いわき市の小名浜聖テモテ教会内の聖テモテ・ボランティアセンターを拠点に再始動を始める予定である。計画が順調に進んでいけば、この教区報が発刊される頃には新しいセンターが稼働しているはずである。今までは、日立から被災地へ毎日車で1時間以上かけて移動すること余儀なくされていたが、いわき市内に拠点を移せば時間と移動費用を節約できる。これに「40歳コード」の削除とボランティアの具体的な活動内容についての方向性を示すことが実現できれば、センターとして更に大きな成果をあげることができると期待する。(まつだいら いさお・桃山学院チャプレン)

東北のおとうさん、おかあさんへ
一緒にさせてください。また会いにいけます

セシリア 浅海 由里恵

2011年3月11日。

東日本一帯を巨大な地震が襲いました。100年に1度、1000年に1度と言われるこの地震は、大きな津波を引き起こしました。この地震と津波は、ひとの生活の営み、

つも言っていました。「なぜ、大阪の子がここまで来てボランティアができるの？ それは、キリスト教だから？」と。その説明にならないかもしれない、手紙を書くことにします。

痕跡、そのすべてを飲み込み、そして、いまだ数々の問題を引き起こしています。この間に出会った、おとうさん、おかあさんたちはい

私は、3月11日のあの日、大阪まで揺れたあの地震の直後からずっと、テレビで一部始終を見ていました。そして、「何かが変わる」という瞬間



宮城県仙台市若林区 荒浜地区の様子
上は2011年4月28日撮影
下は2011年7月9日撮影

を目撃し続けていました。各地の津波の映像を目撃し続けていました。だから、私は4月27日から宮城、茨城といった、そういう各地を転々としています。本当に「何かしたくて」「何か関わりたくて」「現地が見たくて」そういう思いでいます。だから、キリスト教的な「博愛」精神だったり、「犠牲」精神だったりという思いからやっているわけじゃない。たぶん私の中で「何かが変わった」のです。今までの「変わらない思い」は変わらずに持ち続けています。でも、それ以上にあの日を境にもっともっと信念として変わったものがあります。

「被災地」と呼ばれる場所において、いろんな人の「あの日」と「その後」を聞きました。あの日、家具が壊れていくのを見ることしかできなかった人も、お連れ合いさんが流されていくのをただ呆然と見る

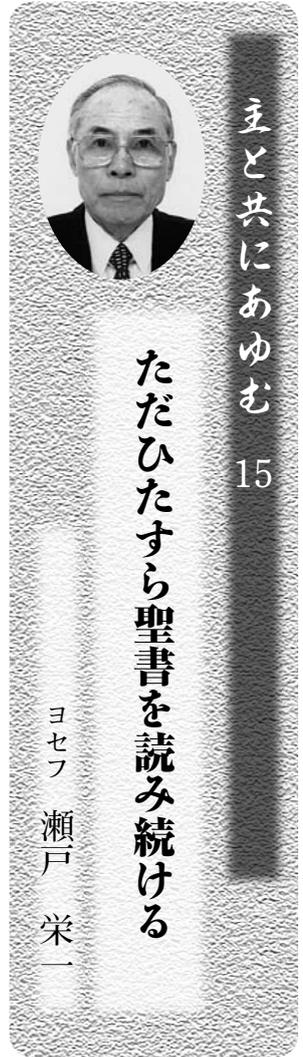
ことしかできなかった人もいます。狭くて人が多い避難所で寒さに震えながら、肩を寄せ合って一晩過ごした人もいます。濁流に飲み込まれながら一晩中家のカーテンにつかまっているしかできなかった人もいます。地割れによって地面が動いている姿を子どもたちに見せないように必死で守っていた保育園や幼稚園の先生たちがいます。避難所まで必死で避難してきたのに濁流が迫ってきてさらに避難した人もいます。携帯電話も財布も全て流されて、連絡を取りようもないまま避難所を転々とした人もいます。このまま暮らしていたら、被曝線量によって身体の健康が損なわれると一家離散を考えている人もいます。そんな日のことをすっかり記憶から消した人もいます。工場にあった機械を全部津波で流されて、「仕事を再開する目処は立っていない」と言った人もいます。これは、ほんの一部分の「被災者」の姿でしかありません。ひとつひとつの被災体験を聞かされた時に、「日本はひとつにはなれっこない」という思い

リエル教会 信徒

主と共にあゆむ 15

ただひたすら聖書を読み続ける

ヨセフ 瀬戸 栄一



鹿児島島の片田舎、しかも西本願寺派末寺の檀家に生まれた私が、キリスト者になった

きっかけを自分に問うてみた。同志社大学の門をくぐったのが、どうもそれらしい。

大学今出川正門の木々の中に、ひっそりと建っている石碑（良心碑と呼ばれる）に記

された新島 襄の言葉「良心の全身に充滿したる丈夫の起り来たらん事を」に魅せられ、必修の宗教学でキリスト教を学び、栄光館でのチャペル・アワーには出来るだけ出席した。

ト教会を眺めながらの毎日であった。ある日恐る恐る教会に入つて見ると、大歓迎を受け、驚いた。創立後数年とのことで、私と同年輩の青年たちの多い教会であった。1961年4月に受洗。現在の妻の母親がペテロ教会の信徒であったことから、堀江司祭に会う機会も多くなり、司祭の勧めで結婚話が持ち上がり、彼女の受洗を待つて、1963年3月に結婚。仕事の関係で約10年間タイ・バンコック駐在。帰国後3人の子供がペテロ幼稚園でお世話になったことから、日本聖公会西宮聖ペテロ教会に転籍。1971年小池主教の按手により堅信を受けた。こうして私の信仰歴を見ると自分の意思とは別に、神様の見守りと導きによって現在に至っているように思えます。

祈りの課題は無量大



1957年、大阪で誕生した「朝食祈教会」は、現在では「朝祷会」と呼ばれています。全国各地に100以上ありますが、毎週どこかの会場で開かれています。大阪教区では聖テモテ教会が会場を提供して朝祷会が開かれています。

りをする、カトリックとプロテスタントの信徒が一緒になつて自由祈祷をする祈りの集いです。「何をどのように祈るの？」との問いが聞こえてきますが、全く難しくありません。祈祷会や朝祷会では前もって祈りの課題が決められている場合が多いので、その課題について思い浮かぶことをそのまま飾らずに、自分の言葉で祈ればいいのです。いくつもの祈祷会、朝祷会

に出席して感じることは、美辞麗句が多く、祈りが長過ぎることです。本心に祈りたいことを自己陶醉せず、簡潔に祈ることが大切です。祈祷会の時、「ひとりずつお祈りしてください」と言われたらどうしますか。特に何々のためにという特定の課題がなかったとしたら……

びや悲しみ、悩みや痛みや苦しき、さらに思いを大きく広げてこの世の中の出来事に目を向けながら、様々な状況に置かれている人々と共に、平和への熱い思いをもって生きられるように、主イエス・キリストの御名によって祈ることです。

また、一人で祈る時には、何ものにも妨害されず、自由に思いを巡らすことができます。そのような時こそ、祈りの課題は限りなく浮かび上がってくると思えます。（主教サムエル 大西 修）

ところで、朝祷会は聖公会ではあまり馴染みがないかもしれませんが、要は祈

そのまま飾らずに、自分の言葉で祈ればいいのです。いくつもの祈祷会、朝祷会

身近な事柄として家族、友人、知人などの人間関係に関わること、日々の生活の中での喜

信仰歴50年にしては、中身の薄いものに思えて仕方ない。色々な研修会にも出席したのに、心に満たされぬ思いがあったのは、聖書の読み込みが足らないのに思いついた。人生の老境に差し掛かった今頃、

（次頁最下段につづく）



京都教区との協働を目指して 聖職と教会紹介 ⑥



執事 マタイ 出口 創

昨年8月から彦根聖愛教会で勤務させていただいてます。国宝彦根城天守閣を目の前にして、少人数ながら毎主日、楽しく礼拝しています。少人数で和気藹々、年齢層もアラフォー世代が多く、他教会の方からは珍しがられたり羨ましがられたりしています。

しかし彦根聖愛教会の最大の特徴は、家族的な人の雰囲気です。連日多忙な現役世代が、何とか日曜には礼拝に集まり、神さまとその家族の交わりに『帰って来る』教会。主日礼拝以外は、何も集会などはありませんが、それだけに『楽しく、無理せず、出来る範囲で、自然体』が Motto の教会です。「ごめん、それ、できひんかったん」「え

えよ、かめへんやん」という声がいとも聞こえています。このような教会で私は何を

しているのかというと、日曜に神さまとその家族の交わりに『帰って来る』信徒さんたちを迎えることです。ちょうど、夏休みなどに帰って来る、お子さんやお孫さんを迎える親御さんの心境に、近いのかもしれません。

彦根の皆さんを通して、「教会は楽しい」という、私にとっての教会の原点、クリスチャンとして、また聖職としての原点に立ち返る幸いをいただいています。そんな私は大阪府出身。京阪沿線、京都教区と大阪教区の境目で育ちました。ですから大阪教区の皆さんは心理的に近い存在です。(でぐち はじめ・彦根聖愛教会牧師補)



聖職候補生 ヤコブ 岩田 光正

今春、ウイリアムス神学院を卒業、現在、大津聖マリア教会で聖職候補生として勤務、また平日には、週3日、非常勤チャプレンとして平安女学院中学校高等学校で勤務しています。すでに高校2年と小学5年の2人の娘がいる父親で、大阪教区の千松清美さんとは学校の同期生、また林正樹さんとは二年間、共に学びました。

大津聖マリア教会は、来年、京都教区の天津講義所として本格的に宣教が開始され120周年、また現在の礼拝堂が1931年に献堂され80年目を迎える歴史的に由緒ある教会で、現在受聖餐者は約70人、主日は平均30人位の出席者です。他の教会同様、高齢化が進行していますが、皆が大きな誇りと愛着をもって教会を支えています。男性も勿論で

すが、特に女性パワーは強力です。礼拝がとて豊かで、聖歌は、担当者数名が翌月の歌を一曲ずつ吟味した上で選び、毎月礼拝後に練習の時間を持つ程で、チャレンジ意欲が高いです。日曜学校も、日によっては子供1、2人、スタッフの方が多いという現状ですが、決して欠かさず守り続けています。その他、毎月定例の家庭集会やキリスト教講座など有志による勉強会が開かれ、非常に活動的な教会です。毎年、地域への対外的活動としてのチャペルコンサートなども開

(前頁よりつづく)
これに気付くのは遅いかもしいれない。しかし、「何事にも時があり…」(コヘレト 3:1)の通り、私の思いついた時も、この時と思いい、旧約39書、続編13書、新約27書、計79書全てを1年間で読む計画を立て、昨年より実施。昨年は予定通り終了。今年も順調に進んでおります。今後何回読めるか、それは、私の残存年数と健康とによりますが、「聖書の事は聖書から知る」の通り、ただひたすら聖書通読に邁進すれば、必ずやその先に道が開かれて来ることを確信している今日この頃である。(せと えいいち・西宮聖ペテロ教会信徒)

催しています。この春、2年後の完成を目標に、改築へと動き出しました。宣教100周年時の教会スローガンは『漕ぎ出せ、湖国から』—教会は今また新しく漕ぎ出しています。(いわた みつまさ・大津聖マリア教会勤務)

ペンテコステ・
ヴィジル

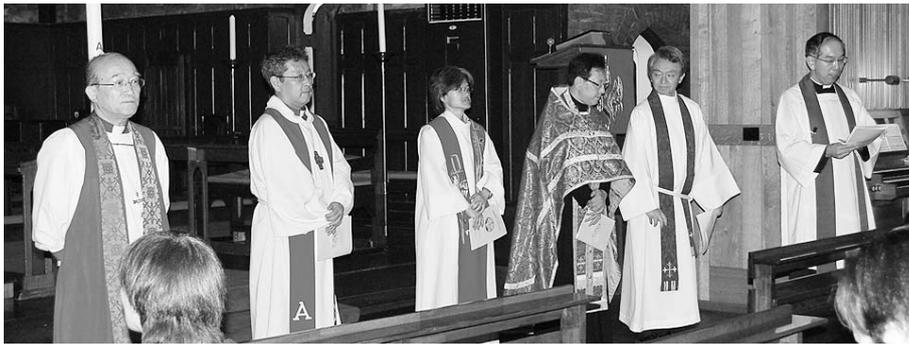
4 教団が集い、

神田牧師がメッセージを

聖職候補生 ジョイ 千松 清美

2011年6月11日(土)
午後5時30分から川口基督教
会で行われた「ペンテコステ」

「ヴィジル」に出席した。この
礼拝は今年5回目となり、出
席者総勢95人のうち、今回は
新たに日本福音ルーテ



写真左から 大西 修主教、松本義宣牧師（日本福音ルーテル教会）、
吉岡秀紀司祭（カトリック大阪大司教区）、井上隆晶牧師（日本基督教団大阪教区）、
神田健次牧師（関西学院大学神学部教授）、内田 望司祭

ル教会が加わり、他の
3教団を含め、大阪に
あるいろいろな教会か
らの多くの出席者にと
もに礼拝をささげた。
説教者には、関西学
院大学神学部教授、N
CC 宗教研究所理事他
であられる神田健次牧
師をお迎えし、「霊と
言葉の出来事」と題し
てペンテコステの出来
事が現在の私たちに与
えている意味をお話し
いただいた。
私は神田健次牧師の
説教をとおして、私た
ちの目には困難で乗り
越えようもないと思
われる問題（たとえ
ば、東欧革命、天安門
事件などの社会的、民



昇天日の聖餐式。説教はチョウ・ジョンピル司祭

昇天日礼拝と教区婦人会総会

ヨハンナ 秋山 公子

族間の問題、東日本大震災な
どの自然災害の被災など）が
私たちの世界にはたくさんあ
る。しかしその中に、聖霊が
働くことよって私たちの交
わり・コミュニケーションが
回復していき、お互いの和解
や一致、また慰めを私たちは
確かに得られるのだというお
話に共感した。聖霊は、私た
ちを傍らに招いて、ともにう
めき、悲しみ、苦しみ、そし

て慰め主・助け主として働い
てくださる。これはまさに私
たちがイエス様の命とつなが
っているという確かさと同じ
だと思った。
なお、礼拝での献金71,
265円は、東日本大震災被
災者のため『あしなが育英基
金』を通して献げられた。
（せんまつ きよみ・西宮聖
ペテロ教会勤務）

前日までの雨が上がり、6
月2日(木)午前10時30分よ
り、昇天日礼拝聖餐式が大阪
城南キリスト教会で、大西修
主教の司式により守られました。
説教はチョウ・ジョンピ
ル司祭がマルコによる福音書
第16章19節を通して、「イエ
ス様はどうして、天に上げら
れたのでしょうか」の問いかけ
から、神様の大きい愛と聖
なる働きを語って下さいまし
た。
東日本大震災の大きな傷と

試験に触れられ、「苦難を試
練を喜びと思ひ、神様に頼り、
打ち勝っていく。いつも神様
が共にいて下さり、私達は神
の愛の声を聞きましょう」と。
代祷では、東日本大震災の
被災者と、昨年度天に召され
た姉妹がたの魂の平安をお祈
りしました。礼拝後、ご奉仕
下さった聖職候補生3人の挨拶
があり、神学校生活3年問
への感謝が述べられました。
出席者は171人（内教役者
11人）。信施金158,05
1円と募金31,946円は、
東日本大震災復興支援のため、
大阪教区を通して献げられま
した。

午後1時より、「総会」が
開かれ、出席者から貴重なご
意見が出ました。特に、議案
の会則改正では修正案が出さ
れ、その案が可決されました。
総会後はバザーを開催。お茶
菓子を頂戴しながら、団らん
の一時を持ちました。この日
の為にご尽力下さった大阪城
南キリスト教会の皆様、お手
伝い下さった近隣教会の皆様
に感謝申し上げます。
（あきやま きみこ・大阪聖
ヨハネ教会信徒）

日本聖公会婦人会 会長会

大震災被災者支援を決定

マリヤ 桜井 揚子

第23(定期)総会後第1回 教区からは、感謝箱献金運営
 会長会が6月21日、22日、横 委員長の井上美津さん、副会
 浜教区主教座聖堂(横浜聖ア 長の榎本清子さん、桜井の3
 ンデレ教会)で開催された。 名が出席した。午後1時の開
 出席者は、全国10教区の婦人 会礼拝で始まり、諸報告のあ
 会長と傍聴者、感謝箱献金事 と、次の議案が決議された。
 務局運営委員、役員に加え、 1号、2号「東日本大震災
 三鍋裕主教(横浜)、チャプレ 被災者支援に関し新たな募金
 ン三原一男司祭(横浜)、三浦 要請があった場合、被災日献
 恒久司祭(京都)の39名。大阪 金から300万円を限度に支

教区礼拝

第2報

とき 2011年9月25日(日)

午前10時30分から

ところ プール学院清心館

説教者 頼榮信主教 (台湾聖公会主教)

— 午後のプログラムも多彩に計画されています —

◇講演会「原子力発電の実態と危険性」(仮題)

講師: 安斎 育郎氏 立命館大学命教授・名誉教授、
立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長

◇キッズ広場 (こどもフェスティバル教区礼拝版)

◇みことばくじ・ガチャポン・キッズフェス写真展示

教区礼拝聖歌隊募集!

練習日: 8月20日(土)・9月10日(土)

いずれも午後6時30分から

会場: 大阪聖パウロ教会・礼拝堂

聖歌: 389・442・512・272・555 (5曲)

練習曲 (2曲):

Mozart <Ave verum corpus>

J.Rutter <All things bright and beautiful>

*アンサンブルも同時募集しています。

お問合せ: 川村輝夫(石橋聖トマス教会信徒)まで

大阪教区婦人会・秋の修養会

日時: 2011年10月18日(火・福音記者聖ルカ日)

午後1時~

場所: 西宮聖ペテロ教会

テーマ: 「途上国での働きより」

講師: 立山恭子さん

(中東・アジアの国々で保健医療に協力)

主催: 大阪教区婦人会

出でき、その決定を役員会に
 委ねる。また、2011年か
 ら5年間、感謝箱献金から毎
 年50万円を積み立て被災者支
 援資金とし、その支出は役員
 会と感謝箱献金事務局運営委
 員会とで決定する。
 3号「あしなが育英会」「東
 北レインボーハウス」設立の
 ための募金に、10万円を20
 11年から2年間お献げする。
 4号「震災後の女性・子
 ども応援プロジェクト」の働
 きのため、10万円を2011
 年にお献げする。

5号「聖公会エルサレム教
 区に属する「アラブ福音聖公
 会学園」の子ども達の給食支
 援に20万円を2011年にお
 献げする。
 6号「コアスタッフについ
 て、任期終了の大岡左代子さ
 んに代わり篠田茜さん、引き
 続き井田涼子さん(共に京都
 教区)を承認。
 7号「運営委員会」を「感
 謝箱献金事務局運営委員会」
 に、「コア(感謝箱献金事務
 局)」を「感謝箱献金事務局(コ
 ア)」に名称変更。

その後の被災日献金活用審
 査では、神学生枠8件、有志
 グループ枠2件を審査。神学
 生から申請のあった図書費に
 ついて、今年度から書籍で差
 し上げることになった。
 22日の聖餐式に続き、感謝
 箱献金事務局の報告、東北・
 中部・北関東教区から大震災
 の報告を伺い、11時30分、閉
 会の祈りをもって2日間の会
 長会を終了した。
 (さくらい ようこ・大阪教
 区婦人会会長、石橋聖トマ
 ス教会信徒)

沖縄週間「沖縄の旅」に参加して

「戦争は過去のことではない」の思い新た

ペテロ 岩城 聡

毎年、6月23日の「沖縄慰霊の日」に合わせて、日本聖公会各教区から沖縄週間「沖縄の旅」が行われる。今年も、「命どう宝―基地・経済・命」というテーマで6月17日(金)から20日(月)までの期間で実施され、全国各教区から50人あまりの人々が参加した。大阪教区からは、私を含む6人が参加した。

実を言うと、これは私にと



普天間基地の前で現地のガイド(長年基地問題に取り組んでおられるクリスチャン)の説明を聞く

って初めての沖縄訪問である。韓国と中国と沖縄については、決して観光旅行では行きたくないからだ。中国と韓国は、これまでに機会を与えられていたが、自分の生き方との関わりで沖縄行きが実現したのは今回が初めてだった。沖縄の歴史や現状、基地問題についてはそれなりの知識(書物の上での)を持っていたつもりであったが、実際に旅に参加してみると、改めて強く印象に残ったことがいくつかあった。

一つ目は、初日の晩に見た『ワン・シヨット、ワン・キル』という映画とその解説であった。沖縄が直面している深刻な問題の一つは、軍隊によるさまざまな「暴力」である。沖縄戦における日本軍

の問題、そして住民に対する米軍のさまざまな暴力事件、度重なる軍用機の事故、

軍用機の強烈な騒音(いや米軍のプレゼンス自体が、暴力そのものであると言ってもよい)―これらは全て「暴力」という問題に集約してゆく。この映画は、米海兵隊の新兵訓練の記録を通して、「人を殺すことができない普通の若者」が「人を殺すことができず兵士」に変えられていくかを描いている。普通の男女青年が、過酷な訓練と「洗脳」によって、3カ月後には「命令であれば躊躇なく人を殺せる」ようになるのである。そして、イラクやアフガニスタンの戦場に派遣されるなかでさらに心が破壊されて、沖縄の基地に戻ってくる。彼らに沖縄の街と人々は何のように見えるのだろうか。

初日に普天間の基地周辺を見た後、2日目には2グループに分かれて行動した。リピーター組は、基地移設反対闘争が続いている高江地区、お

よび辺野古へ。初心者の方たちは南部戦跡の見学へと出発した。この中には、二つのことが印象的であった。一つは、「沖縄陸軍病院・南風原壕群」である。首里を追われて東の南風原付近に移転した陸軍病院は、複雑な横穴の中にあつた。当時、裸電球の光の中で、高さ180センチ、幅180センチという狭い空間の中に置かれた病床の上で、薬も十分になく、麻酔なしに手術を受けた兵士たちの苦しみが時間を超えて伝わってくる。さらに、アブチラガマでは、暗黒の鍾乳洞の中で息を潜めてひたすら「絶対に降伏するな」という命令を守り続けた住民の影が今もそこにいるように感じられる。

そして、いよいよ沖縄戦の最後の戦場、摩文仁である。沖縄戦で氏名の判明している犠牲者(米軍の死者も含めて)のお名前が碑文にぎっしりと刻まれている。しかし、一族がお亡くなりになった方々は名前すら分からない。遠く異国の地に強制連行されてきた



韓国人犠牲者のための慰霊塔

朝鮮半島の人々の中には、存在すら書面によっては確かめられない方々がたくさんおられる。毎年、何百人もの人々の名前が新たに書き込まれると聞いて、戦争は過去のことではないのだという思いを新たにした。

19日の主日は、いくつかの教会に分かれて礼拝に出席。午後からは、北谷の諸魂教会で沖縄教区の「沖縄慰霊の日」の礼拝に全員が参加した。沖縄教区の信徒も含めて盛大な礼拝が献げられた。礼拝後、大韓聖公会から特別参加された李在禎(イ・ジェジョン)司祭(もと韓国政府統一部長官)による講演「東アジアの(次頁4段目につづく)」

聖公会生野センター会員総会

新理事に中村淳司祭(管区宣教主事)

呉光現

年に一度行われる聖公会生野センターの会員総会が、今年5月29日(日)に大阪聖ヨハネ教会で行われた。議長

谷潔会員と太田美智子会員を選出して、前年度の事業・会計報告、今年度の事業・予算案の承認がなされ、今年

とし生ける者すべてが自己を尊重される社会の実現に寄与することを目的とする」を

世界の窓

盗賊に悩む西インド連邦の聖公会

島々で構成される西インド連邦は、美しいリゾート地でも知られている。しかし、観光客とは対照的に現地の人々は貧困にあえぐ。そのような中、西インド

入られたが、建物にこれほどの被害を受けたのは初めて」と語る。お金を得るため

ト教大学の第12回卒業式で、「一般の人でも大学教育を受けることのできる支援を

大主教が政府に意見

ウガンダ聖公会のヘンリー・オロンビ大主教は、学長をしているウガンダ・キリス

張した。

July 3, 2011: Anglican Communion News Service-Digest News)

(前頁よりつづく)

平和と沖繩への思い」が行われた。李司祭は、韓国における人々の闘いの歴史とその意義を振り返り、市民精神こそが歴史の力であったことを指摘された。そして、「平和は

は創造であり、創造は挑戦です」と締めくくられた。そして、韓国での民主主義の闘いが沖繩での平和のための闘いと強く結びついていると語られた。その他、交流会でのこと、個人的な出会いなど、語り尽くせない思いをもって、関西空港に降り立った。この企画の準備に当たって下さった実行委員会の皆様、訪問の機会を与えて下さった大阪教区の方々、教会の方々に心からの感謝を申し上げます。

神学生を囲むつどい

皆さんの神学生を知ってください!

日時: 2011年 8月21日(日) 午後3時~4時30分

場所: 守口復活教会 (会費無料)



ヤコブ 義平 雅夫 守口復活教会出身 ウィリアムス神学館在学中

主催: 大阪教区神学生後援会

教 区 の 動 き

常置委員会報告

6月21日(第9回定例)

5月16日開催の第8回常置委員会議事録を承認。

I. 主教報告

*現時点で決定している教区行事、主教予定が報告された。
*6月30日(木)に東日本大震災京阪神聖公会日立ボランテニアセンター閉所感謝礼拝が行われる。大阪教区東日本大震災支援対策本部長木村幸夫司祭と長野常置委員が出席する。なお、引き続き、第二期プロジェクトがいわき市においてスタートする。

*7月31日(日)礼拝後、高槻聖マリヤ教会において、ヨハネ古澤聖職候補生とルシヤ村上恵依子姉の婚約式が、11月3日(木)午後、石橋聖トマス教会において聖婚式が、それぞれ執り行われる。

II. 教務局長報告

*聖ルカ教会では7月8日に、礼拝堂聖別解除を行い、教会建物の取り壊しが始まる。河内館を当面、主日礼拝の場所とする。東光学園の児童棟は、2012年春に完成予定。

*博愛社では、10月28日に児童養護施設棟の竣工式。祝別式の後、11月に使用開始。来年3月までの工期。

III. 台湾委員会からの報告

台湾との宣教協働関係は、人的交流など所期の目標を十分に果たせていない面もあり、もう一期延長するのが適切である。宣教協働関係延長の調印は、2011年の教区礼拝に説教者として台湾教区の頼主教を招いて行う。

IV. 協議事項

*主教の諮問に基づき、ジョージ林聖職候補生の執事按手式を9月3日(土)に行うこととした。式典長は内田司祭。

*9月25日(日)の教区礼拝に説教者として頼主教を招く。午後からは、立命館大学名誉教授・同大学国際平和ミュージアム名誉館長の安斎育郎氏を招いて講演会を開く。
*教務局から提出された教役者・職員夏期手当案を承認した。

7月21日(第10回定例)

6月21日開催の第9回常置委員会議事録を承認。

I. 主教報告

*現時点で決定している教区行事、主教予定が報告された。
*フランチェスコ成岡宏晃兄の聖職候補生志願書が提出された。

*東日本大震災「京阪神聖公会小名浜ベース」(聖テモテ・ボランテニアセンター)が設立される。調整者は1カ月単位は滞在することが必要。適切な人選を行う必要がある。

II. 協議事項

*フランチェスコ成岡宏晃兄を聖職候補生として推挙することとした。

公 示

2011年7月6日
日本聖公会大阪教区主教
主教 サムエル 大西 修

神のお許しがあれば、聖職按手式を下記のとおり執行します。諸教会における代捧、及び主にある兄弟姉妹のご臨証をお願いいたします。

執事按手 志願者 聖職候補生 ジョージ 林 正樹

記

日 時 救主降生2011年9月3日(土) 午前10時30分
*祭色は「赤」を用います。
式 場 大阪教区主教座聖堂 (川口基督教会)
司式者 主教 サムエル 大西 修
説教者 司祭 サムエル 松岡 虔一
式典長 司祭 テモテ 内田 望

以上

こととした。

*林聖職候補生の執事推薦者は、竹内司祭とする。聖職按手式の信施奉献先は、神学生養成資金とする。

*「震災募金についてのお問い合わせ」を各教会に送り、募金状況の把握に努める。

*教区礼拝について協議し、司式者は大西修主教、式典長は木村幸夫司祭、副式典長は井上進次司祭、説教者は台湾教区頼榮信主教、信施奉献先は、東日本大震災被災者支援とする。

*2013年6月5日が教区成立90周年に当たる。90周年に向けて、記念企画実行委員会を立ち上げる方向で、まず、教務局会議で検討する。

7月21日(京都教区との
合同常置委員会懇談会)

*大阪教区・京都教区合併検討委員会の設置について、最初の案が京都教区から提出された。

*京都教区での事件とその対応について意見を交換した。



祝受洗

大阪聖ガブリエル教会

アンナ 川越 史榮 (4月24日)

川口基督教会

ベルナルド 信田 幸雄
エドワード 松原 炳旭
モニカ 今西 和子 (6月5日)

堺聖テモテ教会

バルナバ 田中 遼
セシリア 田中 潤子
プリスカ 横山 秀世 (7月17日)

川口基督教会

ベルナルド 信田 幸雄
エドワード 松原 炳旭
モニカ 今西 和子
フロレンス 溝渕 彩花
セシリア 坂口 もも子 (6月5日)

大阪聖ガブリエル教会

アンナ 川越 史榮 (6月12日)

石橋聖トマス教会

サムエル 小松 虎ノ介 (7月3日)

堺聖テモテ教会

バルナバ 田中 遼
セシリア 田中 潤子
サラ 田中 愛子
トマス 田中 智
プリスカ 横山 秀世 (7月17日)

魂の平安を祈ります

大阪聖ガブリエル教会

マグダラのマリヤ 鹿角ひろ子 (6月3日・94歳)

西宮聖ペテロ教会

テモテ 新村 隆一 (6月23日・93歳)

石橋聖トマス教会

マグダラのマリヤ 越智智恵子 (7月2日・82歳)

大阪聖ヨハネ教会

ヨハネ 木村 大助 (7月5日・80歳)

大阪聖パウロ教会

マリア 碓 真作子 (7月13日・102歳)

高槻聖マリヤ教会

ユニケ 山本 幸子 (7月21日・85歳)

教会・施設の動き

尼崎聖ステパノ教会

7月3日(日) 礼拝後、服部緑地外国人墓地にてミス・コックス師の墓前の祈りを捧げた。今年の野外礼拝は5月に予定していたが台風のため中止。

8月21日(日) 午後2時〜4時 「ステパノ夏祭り」

地域の方々や教会外の方々と共に一時を過ごしたいと計画。

堺聖テモテ教会

7月3日に、四本喜一氏とラートマン氏によるトランプとオルガンのチャリティ・コンサートを開いた。80人の来場者があり、売り上げは全て、東日本大震災被災者支援のために献げられた。

6月から、4歳児から小学

校4年までの英語教室「キッズブ라운」を開講している。18人の生徒が与えられ、その中から日曜学校に出席する子どもも出ている。

石橋聖トマス教会

7月24日(日) 豊中3教会(東豊中聖ミカエル教会、庄内キリスト教会、石橋聖トマス教会) 合同礼拝を、石橋聖トマス教会にて行った。聖餐式の中で、J.O.C.S(日本キリスト教海外医療協力会) 総主事大江浩さんによる奨励と、午後、植松功さ

大阪市内南地区

6月26日(日) 大阪市内南地区合同礼拝(大阪聖アンデレ教会、大阪聖愛教会、聖ガブリエル教会、城南キリスト教会)を城南キリスト教会において開催した。説教者は木村幸夫司祭。参加者は126人。当日の信施金は84,267円で、東日本大震災被災者のため

講習会のお知らせ

第2回 「み言葉の礼拝」を学ぶ ~ 礼拝の実践 ~

8月28日(日) 14:30~16:00

川口基督教会

信徒奉事者、また関心のある方はどなたでもご参加ください。今回出来上がった新しい式文を用いて礼拝の進め方を学びます。

(日程は21日から変更になりました)

主催：大阪教区 宣教部 礼拝・音楽委員会

教区関係教役者

逝去者記念聖餐式

◇ 9月14日 (水) 11:00 ~

於：主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者：ジョージ 林 正樹聖職候補生
(9月3日執事按手予定)

- 4日 執 事 ラザロ 布施 好古 (1938)
- 6日 主 教 ヨハネ 名出 保太郎 (1945)
- 9日 司 祭 ジェームズ・J・チャプマン (1946 英)
- 11日 司 祭 チャールズ・ハムデン・バジル・ウッド (1941 英)
- 12日 主 教 ヘンリー・エヴァントン (1912 英)
- 14日 宣教師 ドロシー・サローム・ワインウイソン (1963 英)
- 23日 主 教 ペテロ 柳原 貞次郎 (1973)
- 司 祭 ドナルド・F・ウインズロー (2000 米)
- 25日 司 祭 田中 正之助 (1927)
- 27日 宣教師 エルシー・メイ・ベイカー (1977 英)

◇ 10月12日 (水) 11:00 ~

於：主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者：ヨハネ 山根貞夫司祭

- 2日 司 祭 ジョージ・チャプマン (1940 英)
- 9日 主 教 ヨハネ 山田 襄 (1993)
- 12日 司 祭 マルコ 岡 精三 (1997)
- 16日 主 教 ペテロ 松井 米太郎 (1946)
- 主 教 サムエル・ヘーズレット (1947 英)
- 18日 司 祭 ステパノ 木庭 孫彦 (1928)
- 20日 司 祭 チャールズ・セオドア・ワレン (1949 英)
- 23日 司 祭 ステパノ 遠藤 敏雄 (1971)
- 24日 司 祭 深田 直太郎 (1945)
- 司 祭 ペテロ 横田 久明 (1995)
- 25日 宣教師 イブリン・アリス・レーン (1971 英)
- 29日 司 祭 セオドシアス・ステファンズ・テイング (1927 英)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前11時から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご出席ください。

訃報

主教 マルコ 小池俊男師父が逝去されました。

7月28日 (木) 午前11時47分、102歳の生涯を終えられました。

通夜式は7月29日 (金) 午後6時より、ご遺族のみで、葬送式は7月30日 (土) 午前10時30分より、ともに大阪教区主教座聖堂 (川口基督教会) で執り行われました。

魂の平安のため、ご遺族のために慰め・励ましをお祈りいたします。

大阪教区

「東日本大震災第1次救援募金」

(募集期間：2012年3月31日まで)

11,736,083 円 (7月28日現在)

(目標：50,000,000 円)

*各教会で祈りとともに献げられた大阪教区の献金総額は上記の通りです。

おわびと訂正

大阪教区報第419号に、以下の間違いがありました。訂正してお詫びいたします。

※3頁 最下段8行目、10行目

(誤) 6月4日 (水) ↓

(正) 6月4日 (土)

※8頁 「京都教区との協働を
目指して⑤」の執筆者、司
祭 アグネス三浦恵子師の
役職名。

(誤) 平安女学院大学高槻キャンパス・チャプレン ↓
(正) 平安女学院大学チャプレン (京都・高槻両キャンパスのチャプレンを兼任)
※12頁 下から2段目、中程

(誤) 「協議事項」 ↓
(正) Ⅲ. 協議事項

※14頁 3段目、8行目

(誤) 高橋千津子 ↓

(正) 高橋智津子

※14頁 3段目、9行目

(誤) 5月6日 ↓

(正) 5月16日

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。大阪教区報(420号)が無事発行できましたことに感謝いたします。

この夏も多彩な行事が予定されています。どうぞ天候に恵まれ安全にプログラムを終え、ゆたかな実りがありますようにお祈りします。

掲載希望の情報がありません。たら編集部(オフィス・大阪聖パウロ教会)までご連絡ください。皆様の寄稿をお待ちしています。(ジョージ)